

地震で倒壊しないこと

大きな地震、震度 6 程度でも倒壊しないことが大切です。工場の敷地の中で、理想的には、従業員が出勤してくる場所、原材料の納品業者の配送車が通過するところが理想的です。

もちろん、崖に面している所は避け、津波、洪水の時に水没する可能性の有る場合は、水没しないところまで、設備などは、床を上げておく必要があります。

現在考えられる事を全て考え、何が起きても、倒壊しないような建物にします。

大きさは、大きければ大きいほどいいのですが、小さければ一坪程度でも、充分対応出来ると思います。

私は、社有車を利用して、必要な備品、消耗品を積んで対応していました。

雨露がしのげること

地震で怪我をされた方が、横になり、雨露がしのげることが理想です。ただし、コンテナなどを利用した、物置を設置し、テントを備えておけば、危機管理センターは、小さくても対応できるものです。

十分な備品、消耗品が在庫出来る事

天災発生時の消耗品、食糧の在庫量は、3日分と言われていましたが、最低でも7日分の水、最低の食糧などは、備えるべきと考えます。

停電時の自家発電の燃料も7日分は、備えて置ける設備が必要です。2018年9月に発生した、北海道のブラックアウトの時には、自家発電の燃料を輸送するタンクローリーは、交通信号が消えているため、交通事故を恐れて、燃料の配達を行わなかったそうです。

燃料が無くなれば運んでくれる、水が無くなれば、コンビニで買えると考えerのでは無く、今、この瞬間に地震で停電しても、1週間は大丈夫な備えが必要なのです。

食糧などは、従業員の分と、地域の方、帰宅困難者の方が、来られても十分な量を備えるべきです。食品工場には、大きな倉庫、段ボールなど、避難生活に必要な物が備わっています。地域の方と相談し、地域のために何が必要か、打ち合わせておくべきと考えます。

[食品工場の危機管理の基本](#) [危機管理センターについて](#) の [目次に戻る](#)

こんな事が聞きたい方は [連絡先](#) から お願いします。

<http://ja8mrx.o.oo7.jp/koujyou1.htm>

